

2025年度第2回日本学連幹事会議事録

【日程】2025年10月4日(土) 20:00 ~ 22:35

【開催場所】Hana No Paradise zoomを用いたオンライン併用

【議事録作成者】西澤汰知(東北大学)、石井雅人(東北大学)、早川正真(立命館大学)

【目次】

1. 学連登録システムのJapan-O-entrY移行について.....	3
2. 2024年度決算.....	4
3. インカレ枠配分について.....	5
4. 湯ノ岳山麓の版権について.....	5
5. 部局報告.....	6

2025年度第2回日本学連幹事会議事録

出席者(敬称略)

氏名	役職	学校名
石川翔太	幹事長	東京大学
森創之介	副幹事長	横浜国立大学
岩崎壮馬	会計監査	大阪大学
森尾尚生	会計監査	名古屋大学
加藤賢斗	事業部長	筑波大学
高橋悠	事業部員	横浜市立大学
小河凜太郎	普及部員	大阪公立大学
齊藤滉太	普及部員	早稲田大学
西澤汰知	広報部長	東北大学
早川正真	広報部員	立命館大学
石井雅人	広報部員	東北大学
佐藤若葉	涉外部長	東北大学
石原尋季	事務局長	京都工芸繊維大学
川瀬智尋	事務局員	奈良女子大学
屋敷龍吾	技術委員会	京都大学
飯野正太郎	技術委員会	東京科学大学
山崎	北東学連幹事長	岩手大学
美濃部遼	関東学連幹事長	筑波大学
祝部大旗	北信越学連幹事長	新潟大学
大野尊流	東海学連幹事長	名古屋大学
柿本源心	関西学連幹事長	京都大学
井上風大	中九四学連幹事長	広島大学
西村	NishiPro	京都大学卒
浴本悠貴	理事	神戸大学卒

1.学連登録システムのJapan-O-entrY移行について(石原、西村)

概要

石原:学連登録システムの変更について、提案したい。

これまでMulkaを使い、事務局で承認作業を行っていたが、負担が大きかった。また、事務局からJOAを経由して登録する過程で、氏名・生年月日にミスが生じることがあった。

西村:情報の流れが複雑になっていた。他の課題として、夏の大会のエントリー時に競技者登録が間に合わない事案が毎年発生しており、改善したい。

Japan-O-entrYを利用した場合、以下のように登録手続きが変化する。

<個人情報の流れ>

旧:学生→大学(→地区学連?)→日本学連→JOA→JOY

新:学生→大学→JOY

※今まで、大学で取りまとめた申込情報は日本学連に預けられて学連登録、そしてその後 JOA 事務局にまとめられ、JOY に取り込んで競技者登録が行われてきた。これが、大學の JOY アカウントから直接 JOY に登録することができ、より迅速かつ正確に、人手を介さずに登録できるようなる。

<お金の流れ>

旧:学生→大学(→地区学連?)→日本学連

新:学生→大学→JOY→日本学連→地区学連

※学連の登録料はいったん JOY で預かり、特定の締切日に日本学連に納められる形に変更される。

<必要な設定作業と利用の流れ>

- ・各大学クラブのJOYアカウントの取得と連絡
- ・各大学クラブのアカウントへの学生個人情報の設定
- ・JOYへの学連登録のイベントの作成
- ・各大学クラブの学連登録イベントへの申込と入金
- ・JOYの手数料を差し引いた後、の本学連へ加盟料の分配

<そのほかの事項>

学連登録イベントの利用手数料として、他の大会と同率の手数料が適用される。また、

インカレ本戦の大会申し込みにて、JOYを利用できるようにしたい。

以上 2 点を同意する場合、システム構築にかかるその他の初期費用・開発料等は発生しない予定である。

石川:今後の流れとしては11月に行われる総会の決議をもって採用するという形となる。

質問

石原:学連登録の中断制度は新システム上でどのように運用されるか。

西村:中断申請者に限らず、登録者全員について、前年度から学年が適切に加算されているか確認しているのか。

2025年度第2回日本学連幹事会議事録

石原：中断申請があった人については個別に大学から連絡をもらうため、全員確認している。その他の人についても、新規登録ではなく継続登録の扱いとなるため、自動的に学年が上がる設定となっている。

西村：新システムには中断申請・継続登録に相当する機能がない。そのため、今後追加する必要がある。

川瀬：転学した場合の対応はどうなるか。

西村：継続する競技者の登録年数を自動的に1年加算するように作り替えればよいと思う。

石川：大学・大学院で合同加盟する仕組みがある。現在は毎年申請を受け付けているが、これにはどのように対応するか。

西村：大学クラブでのJOYアカウントから大学院も登録すれば問題ないと考える。

川瀬：中高生の頃から競技をしている選手が既にその年度の競技者登録番号を持っている場合、都度番号を聞き出す必要があった。これはどのようになるか。

西村：氏名と生年月日の完全一致で本人とみなす運用をするため、申請等必要なく、自動的に同じ番号が割り当てられる。

森：競技者登録番号は基本的に引き継がれるということか。

西村：登録都道府県が変わらなければ引き継がれる。

2.2024年度決算(石川)

概要

日本学連の主な収入は、学生からの加盟費、日学版権の地図収入、賛助金、インカレの黒字・貸付返金である。また、主な支出はインカレ貸付金、各部局の支出、理事会と幹事会の開催にかかる費用、日本学連版権のテレインの渉外等に関する支出等になっている。

現状は大幅な黒字となっており健全とは言えないため、お金の使い道をもっと考えたい。

支出案

- ・賛助金を全て地方学連へのフィードバックに充てる or フィードバックの割合を増やす
- ・日本学連からのコントローラー派遣とその費用補助
- ・イベントディレクタ費用補助
- ・SI資材購入+無料貸与
- ・山川ハウスの資材整理のバイト代
- ・大学主催で大会を開催する際の援助費用
- ・インカレボランティアへの日当
- ・ユニバー以外の世界大会への補助
- ・各地区学連のセレクションの地図修正や運営費
- ・学生が主催するイベントの傷害保険・行事賠償責任保険を日学が一括して年度単位で加入
- ・OCADライセンスの購入・配布
- ・インカレ講習会と後夜祭等の宿泊費などの、部局の予算の増加
- ・日本学連HPの更新費・固定費

石川：お金をそのまま渡すのは避けたいという思いがある。今後は、今回出た案について学生の希望を広く聞くとともに実現可能性について検討し、できそうなものについては年明けから来年度にかけて実行に移していきたい。

2025年度第2回日本学連幹事会議事録

質問

井上：賛助金の地区学連へのフィードバックはどのように行われているか。
石川：各学連へ送金している。

3.インカレ枠配分について(屋敷)

概要

今年度は暫定としていた来年度以降の枠配分制度について

前年度のインカレ入賞者が9~48位にいた場合、8位以上の場合は地区学連枠が増えてしまう問題があった。そのため、今年度は案Aの前年度入賞者を1~48位以内に含めていなかった。

今の案として

案A: Road to インカレに前年度入賞者を1~48位以内に含めない

案B: 前年度入賞者枠を廃止する。技術委員会として推奨する案

案C: 前年度入賞者が配分圏外にある時のみ配分する枠数が減少する

次回の総会で2026年度以降の枠配分制度に適応していく。

前年度入賞者を枠内定者に加えるかどうかが大きな議題である。

運営の面で、正しい枠数を常に追ってくれるような監督者のような人がいない場合は、案Aは引き継ぎの段階で、正確な枠配分数がわからなくなる可能性がある。

質問

森：案Bに関して、地区学連が前年度入賞者を推薦する仕組みを導入するとしても、結果的に地区学連の1枠が減ってしまうのは、枠数の少ない地区学連にとっては大きなデメリットではないか。

美濃部：運営面の負担を知らない学生としては、出場人数が増えてインカレに出場できる可能性がある案Aを希望してしまうと思う。

森：入賞者をランキングから除外するのはJOY側にお金を支払えばできると思う。

4.湯ノ岳山麓の版権について(佐藤)

概要

今までの湯ノ岳テレインの扱いについて、版権は茨城大学である。日学の新規テレイン開拓事業で茨城大学に資金援助をしたため、茨城大学と福島県協会以外が湯ノ岳を使う場合には日学に利用料として100円(版権の半額分)を支払う契約を茨城大学と結んでいる。この契約は2025年3月で契約終了するので、どうするか、検討する必要がある。

涉外部から茨城大学に提案した新たな契約の内容

- ・茨城大学が引き続き地図を販売し続けること
- ・茨城大学が年に1回以上、当該テレインを利用すること
- ・涉外部手順を日本学連涉外部に共有し、変更があれば隨時連絡すること
- ・茨城大学がテレイン管理を継続できなくなった場合、日本学連に版権を移管すること
(復興した場合には返還する)
- ・1枚100円の版権料については今後不要とすること

2025年度第2回日本学連幹事会議事録

100円の版権料を廃止する理由

- ・版権料はそれほど莫大な収入ではないのではないか。
→廃止しても収入に大きな影響がない
- ・日学としては、収入よりもテレインが永続的に利用できるということに価値を見出すべき

今後湯ノ岳を使いたい場合は茨城大学の予定である。

また、今後は日学側から利用料をとらない方針とする。

5.部局報告

概要

詳細は資料を参照のこと